

モスクワのコミンテルン史料

スペイン内戦関連文書の現状

島田 顕

はじめに

- 1 ロシア国立社会政治史アルヒーフ（RGASPI，ルガスピ）とその利用法
- 2 文書・史料の現状

おわりに

[付表] 文書・史料リスト

はじめに

モスクワにはコミンテルンをはじめとしたスペイン内戦関連資料が豊富にある。しかしながら、それらはあまり知られてはいない。一体どのような文書館にスペイン内戦関連文書があるのか。史料の保存状況はどうか。また研究上の問題点は何か。自分自身の経験を交えながら、モスクワのスペイン内戦関連文書を紹介したい。

1 ロシア国立社会政治史アルヒーフ（RGASPI，ルガスピ）とその利用法

モスクワで、コミンテルン関連の文書・史料は、ロシア国立社会政治史アルヒーフ（RGASPI，アルヒーフとはロシア語で文書館の意）にある。この文書館は、ソ連崩壊後、ソ連共産党中央アルヒーフ（TsPAKPSS，ツパ）から、ロシア現代史文書保管研究センター（RTsKhIDNI，ルツヒードニ）に改組され、今まで一般の研究者が閲覧できなかった文書を公開し始めた。その後1999～2000年にルガスピに再組織された⁽¹⁾。

ルガスピには閲覧室が2つある。4階の閲覧室（小閲覧室）がコミンテルン、国際共産主義運動、社会主義運動関連で、5階の大閲覧室（吹き抜けのホールになっている大きな閲覧室）がソ連共産党、革命運動その他ソ連国内政治関連である。つまり主に共産党関連である。ちなみに国家政治関連文書はロシア連邦国立アルヒーフ（GARF，ガルフ）にある。またクレムリン関係文書は大統領

(1) ルガスピ以前の文書館の歴史については、R・W・デイヴィス（内田健二，中嶋毅訳）『現代ロシアの歴史論争』（岩波書店，1998年），富田武「モスクワ・アルヒーフ事情」『窓』1995年第3号，2-5頁，を参照されたい。特に富田武氏，そして内田健二氏からルガスピ利用に関する様々な御教示を受けた。

文書館にある。ルガスピには、唯一ガイドブック⁽²⁾がある。しかしすでにこの第1巻は絶版である⁽³⁾。

まずロシアの文書館を利用するには紹介状が必要である。この紹介状をもとに入館証を作るのである。入館証がないと閲覧室には入れない。だから入館証を作るために事前に電話連絡して入館証を作る日時を予約しなければならない。但し、飛び入りで入館証を作ってくれるところもある。紹介状に関しては、誰に書いてもらえるかが重要である。権威ある人物ならばなおよい。

ルガスピの開館日は、月、水、金の週3日のみ、10時から17時まで（金曜日は9時半から16時半まで、月曜日のみ20時まで）である。祝祭日は当然休みである。祝日前日は早期閉館となる。ロシアの祝祭日に慣れていないとホテルで無駄な時間を過ごすはめになる。また夏休み中（8月中）は全館休業となる。さらにルガスピでは夏休み後に態勢、開館時間の変化が発表される。

文献の閲覧申請だが、文献を閲覧申請しても、実際に現物を見られるのは、申請より1、2日後である。ロシアの文書館に共通していえることだが、まずコピー機が閲覧室にない。閲覧者は勝手にコピーを使うことはできない。コピーは、概して質が悪い。またコピー手続きの煩雑さという問題もある。だから閲覧者は基本的に手書きで資料をノートに写す。ルガスピではコンピュータの持ち込みが許されている。ちなみにカメラ持ち込み、および撮影は絶対不可である。基本的に史料は館内閲覧のみであり、当然一日で全ての史料を見ることは出来ないの、帰るときは割り当てられた自分専用の棚、ロッカーに入れて帰る。

ルガスピではコピー代が異常に高い（ゼロックスコピーで1枚1ドル）。しかしマイクロフィルム複写は比較的安いので、マイクロフィルム複写を頻繁に利用した。マイクロフィルム複写代は、1枚あたり35セントで、ファイルごとに65セントである。コピーもマイクロも申請用紙に記入し、出来上がるまで最低2週間は待たなければならない。支払いだが、ロシアの通貨であるルーブルは不安定であるため、計算にはアメリカドルを用いる。総計には、10パーセントの消費税、その他の

(2) *Kratkii putevoditel' po RTskhIDNI*, tom 1, M., 1993, tom 2, M., 1996（『ロシア現代史文書保管研究センター小ガイド』第1巻、第2巻）。これは史料についてのガイドで、利用法は書かれていない。

(3) モスクワではルガスピ以外にスペイン内戦関連文書史料を保管している図書館、文書館として次のものがある。例えば、頻繁に利用されているものとして、RGBロシア国立図書館（旧レーニン図書館）、GPBロシア国立公共歴史図書館、GARFロシア連邦国立アルヒーフ、NBFA連邦文書学術図書館（GARF付属図書館）、INIONロシア科学アカデミー附属社会科学学術情報研究所、利用が困難なものとして、AVPRFロシア連邦外務省文書館、RGVAロシア国立軍事アルヒーフ（外交文書館と同様の事情）、さらに利用が難しいものとして、内務省文書館が挙げられる。このうち、RGBとAVPRFは全世界のスペイン内戦関連資料館ガイドブックであるフアン・ガルシア・デュラン『スペイン戦争：史料（文書館、図書館、映像史料館）』（Juan García Durán, *La Guerra civil española: Fuentes (Archivos, bibliografía y filmografía)*, Crítica, Barcelona, 1985, pp. 304-314.）のソ連の項目で紹介されている。またAVPRF、RGVAでは、利用資格を得るための説得、交渉が必要である。研究との関連、何故その研究をやっているのかを司書に説明しなければならない。当然語学力と交渉術が要求される。また最近出版された資料集ではRGVAの文書が多数所収されている（*Spain Betrayed, The Soviet Union in the Spanish Civil War*, edited by Ronald Radosh, Mary R. Habeck, and Grigory Sevostianov, Yale University Press, New Haven and London, 2001.）。

税金(手数料)を上乗せし、その日の対ドルレートで換算し、ルーブルで支払うようになっている。

事務手続きは複雑、煩雑である。初めての者(特に外国人)は、容易に手続きのやり方を熟知することはできない。大体の文書館には利用案内、ガイドブック、パンフなどはない。館内で使える言葉はロシア語のみである。

教訓として、司書と知り合いになることが先決である。知り合いになれば相手も人間なので人情が生まれ、色々懇切丁寧に教えてくれるし、多少の無理もきいてくれるようになるからである。そのためには御土産攻勢などで機嫌をとることも珍しくない。さらに研究会、研究者の紹介を受けることもある。また、誰でもいいから、先に利用している人を掴まえて、色々教えてもらうことも大切である。

コミンテルン研究が複数言語の知識を要求するのは当然のことであるが、これほどまでに手がつけられていない理由として、やはり文書館で通用する言語がロシア語だけで、さらにとっつきにくさ、調査しにくいこと等が挙げられるだろう⁽⁴⁾。

2 文書・史料の現状

それではルガスピにはどのような文書・史料があるのだろうか。膨大な数があるが、スペイン内戦関連に限り、独断で次のように分類したい。すなわち、(1) 現在までに閲覧できたもの、(2) その存在について知っており、なおかつ閲覧が可能だが、時間的余裕がなく閲覧できなかったもの、(3) 現在閲覧が不可能なもの、(4) その他に関連すると思われるもので、現在閲覧出来るもの、(5) 個人フォンド、(6) 基本的に4と同じだが現在閲覧できないもの、の6つである。それぞれ具体的に説明しよう。また本稿の最後に簡単な文書リストをつけておく。

(1) 閲覧したもの(スペイン内戦関連)

ルガスピを訪れ、コミンテルンに限らず、最初に目を通すべきものがオーピシ(目録)である。このオーピシにはジェーラ(ファイル)の表題が台帳のように大きなファイルになってリスト化されている。ルガスピでも、文書・史料には分類番号(大きい分類から、フォンド[文庫]、オーピシ[目録]、ジェーラ[ファイル]、リスト[文書]の各番号)が付けられている。ここにはジェーラの番号、ジェーラ名、ファイル内の文書・史料の枚数・点数、さらにジェーラ内史料の期間、ジェーラ内史料が書かれている言語、コピーかどうか、が書かれている。期間はその組織・機関の存在期間、また個人であればその個人の生没年を表すものではない。言語は大体がロシア語、ドイツ語、英語、フランス語であるが、関係書類によってはその共産党の国の言語など、数ヶ国語に及ぶこともある。何が見たいかといえば、司書が勝手に出してくれる。または前述のガイドブックに

(4) スペイン語文献でも、モスクワの文書・史料を用いたものは今のところ、Antonio Elorza y Marta Bizcarrondo, *Queridos Camaradas, La Internacional Comunista y España 1919-1939*, Planeta, Barcelona, 1999のみである。

書かれているフォンド名、もしくはガイドブックの該当箇所を提示してオービシを請求するのである。オービシは大体が5階大閲覧室にそろっているが、コミンテルン関係の史料は、ルガスピ内の各専門調査官(研究者、担当者)の研究室にある場合もある。その場合は5階閲覧室にはないので、4階閲覧室の司書に請求するか、4階閲覧室の司書に担当者の研究室の場所を聞いて、直接その担当者からオービシを借り、4階閲覧室で見る。

IKKI幹部会、書記局：コミンテルン関連でまず見なければならぬのが、IKKIコミンテルン執行委員会の文書・史料である。IKKIは、いわずとも知れたコミンテルンの最高機関である。各国共産党の中央委員会が、この組織にならったものであることも周知のごとくである。しかしながらIKKI総会は、1935年7月25日から8月21日に開催された第7回世界大会直後の8月21日に一回だけ開かれ、幹部会会員と書記局員を選出して終わっている。またIKKI拡大総会も1933年11月28日から12月12日に開かれた第13回会議を最後に一回も開催されていない。つまり1935年以降の主要な諸問題はコミンテルン内ではIKKI総会では検討されてはいない。元々、IKKIはさらに執行機関として常任幹部会(当初は小ビューローと呼ばれた。後の幹部会会議である)と書記局を持つ。つまり第7回世界大会以降、重要な問題を検討してきたのは、幹部会会議と書記局会議の2つの機関である。「指導的機関、コミンテルンの政策にかかわる重要な問題すべてを解決する。各共産党の最重要な活動に関するしかるべき決定を行う。社会政治闘争、世界の反ファシズム闘争の中心点について、コミンテルンの指導的機関は、主な具体的問題の全てに関し、各国共産党に命令を与える」とあるように、これが最重要組織であることがわかる⁽⁵⁾。書記局、幹部会会議の史料は、それぞれ議事録番号が付けられ、クロノロジカルに並んでいる。だが、どの議事録がスペイン問題を扱ったものなのかわからなかった。オービシでは一つのジェーラが含んでいる議事録の番号と、その年月日しか書かれておらず、しかも一つの会議でいくつもの問題について話し合われたからである。しかしAuszugとの併用により、史料調査が容易になった。Auszugは、IKKI幹部会会議、書記局会議議事録のスペイン関連問題の抜粋である。A5判カードで80枚あり、主にドイツ語[後に少々ロシア語でも]で書かれている。ルガスピのスペイン担当であるローゼンターリ女史が常にこのカードの束を管理している。このカードにはスペイン内戦を扱った議事録がリスト化されている。前述のように、目録[オービシ]に議事録番号が書かれていることから、見るべきジェーラ(ファイル番号)

(5) 各組織、各個人の概要については、次の文献を参照した。B・ラジッチ、M・M・ドラチコヴィチ(勝部元、飛田勘次訳)『コミンテルン人名辞典』(至誠堂、1980年)、G. M. Adibekov, E. N. Shakhnazarova, K. K. Shirinya, *Organizatsionnaya struktura Komintern 1919-1943*, M., 1997. (G・M・アジベコフ、E・I・シャフナザーロヴァ、K・K・シリニーヤ『1919年から43年のコミンテルンの組織機構』(モスクワ、2000年))、L. S. Kheyfets, *Latinskaya Amerika v orbite Komintern (Opyit biograficheskogo slovary)*, M., 2000. (L・S・ヘイフェツ『コミンテルンの路線におけるラテン・アメリカ(人名辞典)』(モスクワ、2000年))、*Stalinskoe politbyuro v 30-e godyi sbornik dokumentov*, M., 《Airo - xx》, 1995, str. 148-152. (『30年代におけるスターリン政治局 文書集』)、V. A. Torchnov, A. M. Leontyuk, *Vokrug Stalina Istoriko- biograficheskii spravochnik*, M., 2000. str. 237-239. (V・A・トルチノフ、A・M・レオンチュク『スターリンの傍で 歴史伝記的ガイド』(モスクワ、2000年))、*Komintern i grazhdanskaya voyna v Ispanii, dokumenty*, M., 2001 (『コミンテルンとスペインにおける内戦 史料集』(モスクワ、2001年))。

の特定が容易になり、IKKI幹部会会議、書記局会議の調査がやりやすくなった。Auszugを見ると、スペイン関連の会議は1939年3月の内戦終結後も開かれていることがわかる。またAuszugはスペイン内戦以外にも、分野別、共産党別、問題別に作られているので、ルガスビでコミンテルン関係文書を調査する人は、スペイン内戦問題に限らず、まずルガスビ内の専門家を探し出し、Auszugを調べなければならない。

書記長 (General'nyi sekretal') : 書記長は、IKKIの指導的機関の中で焦眉の政治的、戦術的問題を準備し、提起し、各共産党と文書をやりとりし、書記局会議の議題を決定し、様々な問題をどの機関に任せなければならないかを決定し、プロトコール(議事録)、指導的機関の文書全てに署名した。また書記長は指導的機関の適時な決定のやり方を見守り、IKKIの機関の活動に対する包括的なコントロールを行った。後述する書記局ビューローは直接書記長に属している。IKKI書記長としての独立したフォンドは存在しない。書記長は各書記局員と同様に個人書記局(書記長個人書記局)を持っており、書記長に関する史料が書記長個人書記局に集中していることから、これが次に述べる書記局ビューローとともに書記長の官房の役割を果たしていたのだろう。ディミトロフ書記長個人書記局については後述する。

書記局ビューロー (Byuro sekretariata) : 1935年10月13日のIKKI幹部会会議の決議により、IKKI書記局ビューローは直接書記長の指導下に活動するようになった。書記局ビューローは次のような役割を担っていた。IKKI指導諸機関の会合の技術的準備(会合のための資料収集、会議までに資料を適時に発送すること、通訳の組織、その他)、会議議事録の作成と議事録抜粋を適時配布すること、採択された決定をすべて収集すること、指導機関により承認された文書の最終的なテキストを適時受け入れ、それらを各党、もしくはしかるべき上下の諸機関へ発送すること、IKKI機構内部の指導諸機関の決定を適時チェック、監視すること、決議実施の進展に関し書記長に報告すること、IKKI機構内の秘密活動の実行を監視すること、である。書記局ビューローに付属して、通訳ビューロー、派遣ビューロー、IKKI文書館が存在した。この書記局ビューローの史料は各国別に分類され整理されている。もちろんスペインのものもある。但し書記局、幹部会の文書・史料と重複しているものもあるが、幹部会、書記局の史料で拾えなかったものを補う上では便利である。

国際旅団 (Interbrigada) : ルガスビでスペイン内戦について調べたいと申し出ると、最初に必ず見ることになるのが国際旅団のオーピシである。ここには国際旅団司令部、基地、各部隊の作戦命令書、旅団兵の様々な個人文書、手紙、写真史料などが収められている。史料は旅団毎に分かれている。また旅団兵個人の史料は国別に分かれている。

PCEスペイン共産党 : スペイン共産党は1920年4月に、社会主義青年同盟を中心に結成された。このフォンドでは創立期からのスペイン共産党を迎えることができる。内戦期ではスペイン国内の様々なビラ、パンフレット、ポスターや写真史料が収められている。

(2) 閲覧可能だが、時間的余裕がなく閲覧できなかったもの

POUMマルクス主義統一労働者党 : スペイン共産党から出たグループがトロツキー支持グループと合流する形で1935年にカタロニアに結成されたのがPOUMである。POUMはコミンテルン加盟政党ではないが、その指導者の一人であるアンドレス・ニンはCNTの活動家としてモスクワに滞

在していた。ルガスピにあるのは内戦関連の文書だけである。

MOPR国際革命戦士救援会：1922年12月に、ロシアの古参ボリシェヴィキ、政治流刑者、流刑植民者（強制移住者）の協会のイニシアチブを受け、コミンテルン第4回大会の決議により、様々な国々の迫害・テロルの犠牲者に対する物質的、精神的、法的援助のための組織として創設された。1932年にソ連を除く67カ国に在外支部を持ち、127万8274人の個人メンバーを有していた。この組織にスペインセクションがあったことがわかっている。

また、前述のMOPRと同様に、コミンテルン指導下の国際組織である、プロフィンテルン＝赤色労働組合インタナショナル、KIM共産主義青年インタナショナル、スポルチンテルン＝赤色スポーツインタナショナル⁽⁶⁾は、それぞれスペイン内戦でも重要な役割を果たした。だがクレステンテルン＝赤色農民組合インタナショナルは1933年に解散し、スペイン内戦の時期にはすでに存在していなかったため該当しない。

(3) 現在、閲覧できないもの

ディミトロフ書記長個人書記局：1935年の第7回世界大会以降、IKKI各書記は直接共産党代表、共産党指導部と結び付くことになり、また個々の問題を担当する個別の個人書記局を有していた。これらの個人書記局は第7回世界大会以前の地域書記局（Lendersekretariat）と著しく異なる。これら個人書記局は具体的な政党の政策に関する決定を何も行うことができなかった。書記局、幹部会会議の決議案の準備を唯一行うことができた。だからこれら個人書記局会議の議論は決議案準備の枠を出るものではない。IKKI活動の中心はあくまでも幹部会会議、書記局会議であった。つまり共産党の問題に関する重要な具体的な決定を準備してきた以前の地域書記局は衰退し、IKKI指導者がより直接的な形で各国共産党の現在の活動をコントロールするようになったのである。ディミトロフ書記長個人書記局の地域的な担当は、中国問題だが、ここにはコミンテルン書記長の全活動を知ることができる文書がおさめられている。つまりディミトロフ個人書記局が扱ったのは中国だけではない。スペインもある。特にスペイン関連では、オーピシ74、76の文書が該当し、その一部は史料集に所収されている⁽⁷⁾。だが、ルガスピでは、日本問題担当のクーシネン個人書記局⁽⁸⁾、バルカン問題担当のピーク個人書記局の史料は公開されているのだが、ディミトロフ書記長個人書記局、マヌイリスキー個人書記局の文書は一般には公開されていない。いつ、どのような形で公開されるのかもわからない。そしてそのオーピシは現在読むことさえできない。

マヌイリスキー個人書記局：マヌイリスキー個人書記局は、第7回大会以降作られた複数の

(6) モスクワの資料を用いてはいないが、スポルチンテルンの研究として次のものがある。上野卓郎「1930年代2つのスポーツインターナショナル関係史（ ）（ ）（ ）」『一橋大学研究年報 社会学研究』37号（1999年3月）89-207頁，39号（2001年1月）31-98頁，40号（2002年3月）145-179頁。

(7) Ukaz. *Komintern i grazhdanskaya voina v Ispanii, dokumenty*. または *Dimitrov and Stalin 1934-1943 Letters from the Soviet Archives*, Edited by Alexander Dallin and F. I. Firsov, Yale University Press, New Haven and London, 2000.

(8) クーシネン書記局の史料を含む、日本関連の史料集として、*VKP (b), Komintern i Yaponiya 1917-1941*, M., 2001. が出版されている。

個人書記局の一つである。マヌイリスキー個人書記局は、スペイン、フランスおよびフランス植民地、ベルギー、ポルトガル、ルクセンブルグ、イタリアなど中南欧諸国を担当していた。この個人書記局には、政治補佐役2名、相談役5名、その他7名の職員を含む、全部で14名の職員がおり、これとは別に、当個人書記局にはイタリア、スペイン、ポルトガル、の三つの共産党の代表(つまり各共産党から一人ずつ、計3人)がいたことがわかっている。別の史料によると、1939年にE・V・ゴルベヴァ(補佐役、書記)、ジトコヴァ(技術担当書記)、ポルミエンコ(相談役)、ペルトーミ(相談役)、ブランドン(相談役)、ルキナ(総務書記)の職員がいた⁽⁹⁾。

暗号電文の書き写し：各組織、各機関、各国共産党に対する実際の指令がここにあるのだろう。しかしディミトロフ書記長個人書記局の文書の中にも同様のものがある。両者の関係、役割分担はどうなっていたのだろうか。また両者に重複はあるのだろうか。文書非公開であるために、これらのことは一切分からない。

IKK国際統制委員会：1921年6 - 7月のコミンテルン第3回大会において導入される。その役割は、国際共産主義者の規律を監視すること、特にコミンテルンの公式路線からのどのような逸脱をも防ぐことであった。発足した日から1936年4月1日まで、IKKは党の1114人についてのファイルを調査した。実際に彼らが見ていた問題のある重要な部分は、「裏切り、煽動、地下活動、フラクション闘争の破壊に関するファイル群」であった。そしてあまり重要でないファイルは党の調査にゆだねられた。IKKの活動の主な欠点の一つとして、IKKが主に「党の懲罰機能と、機能の程度はあまり大きくないが教育機能」を行っていたことである。IKKの決定はかなり限定されたサークルの人々のファイルにまで及んでいる。すなわちその人物が黨員となっているところの党の組織にまで及んでいる。IKKI, IKKIM国際共産主義青年インタナショナル執行委員会の機構で活動していた黨員の「犯罪者ファイル」についてだが、これらは党委員会(パルトコム)の総会、もしくは会議で検討された。これらのファイルは極秘問題が犯罪に絡んでいる場合にのみ国際統制委員会に渡された。この組織にスペインセクションがあったことがわかっている。

人事部(Otdel kadorov)：1932年の政治書記局政治委員会の決議により、IKKI組織部人事セクションと特別部を土台に創設された。人事部の機能には、コミンテルン幹部の登録・配置、共産党幹部を摘発から守るための措置の作成、ソ連に滞在していた政治亡命者間の政治活動の実行がある。人事部の史料のなかで、「IKKI人事部のスペイン共産党幹部に関する文書」と題するジェーラ(ファイル)がある。だが一般に公開されていないため、その現状はわからない。

(4) その他に関係すると思われるもの(閲覧可能なもの)

エルコリ(トリアッティ)個人書記局：トリアッティがトロツキストなど反革命的活動の担

(9) RGASPI, f. 495- o. 18- d. 1275- ll. 142 ~ 165. マヌイリスキーの問題については、拙稿「スペイン内戦とコミンテルン ソ連崩壊後公開されたモスクワのコミンテルン関連文書におけるコミンテルンのスペイン内戦政策」『スペイン現代史』第13号,(2001年), 36-50頁を参照されたい。

当であったことは、以前より知られていた⁽¹⁰⁾。さらにPOUM粛清関連の情報がこの個人書記局に集まっていたことが、ヴァジム・ロゴヴィンの著書によりわかっている⁽¹¹⁾。だからこの個人書記局も調べ直す必要がある。

イバルリ個人書記局：本来はラテンアメリカのみの担当だが、やはりジェーラの表題に「共産主義青年インタナショナル執行委員会のスペイン共和国援助の諸課題に関するラテンアメリカ諸国の青年諸組織への命令書、ラテンアメリカ諸国のスペイン共和国に対する援助に関する論文」とあるように、ラテンアメリカ諸国のスペインがらみの動きをこのフォンドから知ることが出来る。

その他に関連あるものとして、国際的反ファシスト諸組織のフォンド、MJSコミンテルン国際婦人書記局、IKKI印刷出版部を挙げておく。特に印刷出版部では、「ラルゴ・カバリエロの1936年1月14日の演説」という史料が、前掲の『世界革命と世界戦争』に所収されている⁽¹²⁾。

(5) 個人フォンド

個人フォンドには、スターリン、その他の活動家個人に関する史料がそれぞれ収められている。書簡、写真、蔵書などの資料があるが、個人の私的文書も多く、遺族以外は非公開となっているものもある。ここではコミンテルンとソ連共産党内でスペイン問題に関する政策決定に重要な役割を果たした人物たちを挙げておこう。

スターリンの個人フォンド：ソ連の政策決定⁽¹³⁾で最大の影響力をもった人物がスターリンであるが、このことはスペイン問題でも例外ではなかった。イオシフ・スターリン・フォンドのオーピシ1にはディミトロフとの往復書簡がある。このうち、1935年まではすでに確認されている。また一部は史料集に収められ公開されている。オーピシ2は非公開らしい。このフォンドのスターリンとの往復書簡は名前順に整理されている⁽¹⁴⁾。

スターリンの側近たちの個人フォンド：スターリン以外に政策決定に重要な役割を果たした者たちとして、スターリンの側近たちが挙げられる。中でもヴォロシーロフ、ジュダーノフ、モロ

(10) 例えば1936年9月16日から19日のIKKI幹部会・書記局会議でトリアッティは第二部会のトロツキストの活動に関する会議「トロツキスト・ジノヴィエフセンターの裁判に対するキャンペーンとトロツキスト・ジノヴィエフセンターの裁判の教訓」に参加し、報告を行っている。RGASPI, f. 495- o. 2- d. 232- l. 8.

(11) V. Rogovin, *Mirovaya revolyutsiya i mirovaya voyna*, M., 1998. (ヴァジム・ロゴヴィン『世界革命と世界戦争』(モスクワ, 1998年)), 24, 25, 26章を参照されたい。

(12) *ibid.* pp. 150-151.

(13) 全連邦共産党中央委員会政治局会議でスペイン問題に関しどのような決定がなされたのかについては、次の文献を参照されたい。*Politbyuro TsK RKP (b) -VKP (b) povestki dlya zasedaniy 1919-1952*, Tom , 1930-1939, M., 2001 (前掲『ロシア共産党 全連邦共産党中央委員会政治局会議 1919 1952年』第2巻)。また政治局会議議事録には特別ファイルがあり、より詳細に議事の内容が記されているのだが、これは非公開である。富田武氏が特別ファイルの内容を筆写し、スペイン内戦に関する部分を見せていただいた。また特別ファイルの一部は次の文献に所収され、公開されている。*Politbyuro TsK RKP (b) -VKP (b) i Evropa. resheniya "osoboy papki". 1923-1939*, M., 2001 (『ロシア共産党 全連邦共産党中央委員会政治局会議とヨーロッパ 「特別ファイル」の決定 1923 1939年』(モスクワ, 2001年))。

トフのフォンドがある。これ以外にもフォンドとして整理されていないが、重要な側近たち(カガノヴィッチ、ミコヤン、アンドレーエフ、ターリ、フルシチョフ)の史料や、スペイン内戦に関連した組織の幹部(例えば対外貿易、商業、水運、食品工業、財務、内務、教育の各人民委員部、中央執行委員会、全連邦労働組合中央ソヴェト(評議会)、タス通信、モスソヴェト)も当たる必要がある。これらの人物たちの史料については、スターリンフォンドやその他のフォンドにこれらの人物との往復書簡として残されている。

コミンテルン幹部、スペイン内戦関係者のフォンド：コミンテルン幹部、スペイン内戦関連では、マヌイリスキー、トリアッティ、クーシネン、フォスター、ディアスの個人フォンドがある。一方ディミトロフ、イバルリ、トレーズ、ゲレ、コドヴィーリヤの個人フォンドはない。フランス共産党員については若干だが文書が残っており、フランス共産党フォンドには、マルティ、トレーズの文書コレクションがある。また国際反ファシズム運動全体として、スペイン共和国連帯運動をとらえようとするならば、各国共産党の文書を見なければならぬだろう。ちなみにトリアッティの個人フォンドだけは閲覧を申請したことがあるが、非公開だった。

(6) その他

その他に、関係すると思われるものとして次の組織がある。全連邦共産党(ボ)代表団、全連邦共産党(ボ)委員会、全連邦レーニン共産主義青年同盟委員会は、いずれもコミンテルン内組織である。これらはコミンテルンとソ連側とのつなぎ役を務めていた⁽¹⁴⁾。全連邦共産党(ボ)代表団の史料は一般公開(部分的)されているが、全連邦共産党(ボ)委員会、全連邦レーニン共産主義青年同盟委員会は一般非公開である。

最後に国際連絡部(Otdel mezhdunarodnoi svyazi)を取り上げておこう。国際連絡部は1921年のコミンテルン第3回大会後に創設され、実質的には地下活動を通してではあったが、コミンテルン史上重要な役割を果たしたとされている。国際連絡部の代表を通してIKKIはその在外支部との秘密連絡を維持し、さらに政治的指令並びに財政その他の援助を与えた。第7回大会以後、連絡部の活動は変化を余儀なくされた。1936年には名称も「IKKI書記局連絡課」と変更された。連絡ポイントも再組織され、連絡課と連絡ポイントの責任者との合意、署名を实践する制度が導入された。IKKI書記局は連絡ポイントを、安定した連絡を保証するためのものとして方向付けた。国際状況の

(14) このフォンドの中でもスターリンとの往復書簡群がその一部の史料は次の文献に所収されているが、スペイン関連は1936年末までしかない。*Stalin i Kaganovich Perepiska 1931-1936gg.*, M., 2001 (『スターリンとカガノヴィッチ、往復書簡、1931年から1936年まで』(モスクワ、2001年))。さらにスターリンとモロトフの往復書簡集もあるが、スペインに関するものはない。*Stalin's Letters to Molotov*, edited by Lars T. Lih, Oleg V. Naumov, and Oleg V. Khlevniuk, foreword by Robert C. Tucker, Yale University Press, New Haven and London, 1995., *Pis'ma I. V. Stalina V. M. Molotovu, sbornik dokumentov, 1925-1936 gg.*, M., 1995.

(15) 加藤哲郎氏はIKKI内全連邦共産党(ボ)委員会、IKKI内全連邦共産党(ボ)党細胞、IKKI内全連邦共産党(ボ)代表団、IKK、OMS、人事部が、ソ連側のコミンテルン支配を支えた制度的支柱であるとしている。加藤哲郎『モスクワで粛清された日本人 30年代共産党と国崎定洞、山本懸蔵の悲劇』(青木書店、1994年)、36-48頁。

緊迫化が進んでいることを考慮し、合法的な連絡のすべてを非合法のものから完全に切り離すことが助言され、「亡命政党の代表者たち」は、非合法機構との連絡用に、責任ある人物を任命するよう助言がなされた。これらの者たちは政党の合法的な施設を訪れることが禁止された。他の非合法化措置もとられた。「予備の党機構」は非合法的活動を要求するものではなかった。非合法活動問題のすべてに関する交渉は、非合法の施設その他で行われなければならなかった。パリ、プラハ、ブリュッセル、ストックホルム、イスタンブール、チューリヒ、アテネ、上海、その他の諸都市における連絡ポイントは、伝書使（急使）課、そして「パスポート技術」のスペシャリスト、秘密文書のスペシャリスト、暗号のスペシャリストを擁していた。スペイン内戦の時期に、IKKI連絡課の一部のポイントは、スペインへの国際旅団義勇兵派遣に従事した。連絡ポイントの中でも港湾都市に置かれていたものは、モーターボートを使用し、綿密な身元調査が済んだ遠洋航路船船員の力添えを頼みとしていた。OMSが非合法組織であったためかどうかはわからないが、OMSの史料はルガスピ内にフォンドとして存在していない。

おわりに

以上見てきたように、スペイン内戦関連文書でもまだまだ未発掘のものが多い。また依然として非公開の文書が多く、このことが研究のさらなる進展を阻害しているといえよう。ただし、非公開の史料は、ルガスピ研究者とその共同出版プロジェクトの共同研究者に対してのみ公開されており、それら史料を用いた研究が発表されている。これに対し、一般の閲覧者、非共同事業の研究者に対しては公開してはいない。特に粛清に関係するものは閲覧が困難である。この点で不公平感はない。だが現在一般に公開されているものの中でも、注目すべき史料は多い。それらを整理、分析することもこれからの課題といえよう。今までの史料による研究と、一般公開された文書による研究と、ルガスピ研究者にのみ公開された一般非公開の文書による研究の差異を明らかにしなければならない。一般非公開の文書も、史料集、文書集、さらに『歴史の諸問題 (Voprosyi istorii)』、『祖国史 (Otechestvennaya istoriya)』、『歴史文書 (Istoriicheskiy arkhiv)』、『祖国 (Rodina)』、『軍事史雑誌 (Voенno-istoriicheskiy zhurnal)』、『近現代史 (Novaya noveyshaya istoriya)』、『史料 (Istochnik)』などの歴史雑誌で漸次公開されている。これらで、史料状況に常に目を光らせておかなければならない。また史料の公開状況を確認するためには定期的に図書館に詣でることも必要である。

*尚、本稿は、2001年10月13日、法政大学小金井キャンパスで開催されたスペイン現代史学会大会での報告レジюмеに加筆、修正したものである。

(しまだ・あきら 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程)

[付表] 文書・史料リスト

Fはフォンド [文庫] 番号, Oはオーピシ [目録] 番号, Dはジェーラ [ファイル] 番号, Lはり

スト[文書]番号を示す。枚数は文書の枚数・点数を示す。年はその組織・機関の存在期間、個人の生没年を表わすものではない。またこのリストは史料・文書の全てを網羅するものではない。

(1) 閲覧したもの(スペイン内戦関連)

F495 : IKKIコミンテルン執行委員会

O2 : 幹部会会議(1919年~1941年, 413ファイル, 1999年以降閲覧できなくなった)

O18 : 書記局会議(1919年~1943年, 1422ファイル)

F495 O20 : 書記局ビューロー(1919年~1941年, 1147ファイル, 各国別に分類されているものから, スペインに関するものだけをピックアップした)

D260~286 : スペイン問題

D260 : IKKI諸機関で採択されたIKKI政治書記局, 政治書記局政治委員会で承認されたスペイン共産党に関する決議集(1929年5月3日~1932年1月11日, 636枚)

D261 : IKKI諸機関で採択されたIKKI政治書記局, 政治書記局政治委員会で承認されたスペイン共産党に関する決議集(1932年9月3日~1935年3月, 256枚)

D262 : IKKI諸機関で採択されたIKKI幹部会, 書記局会議で承認されたスペイン共産党に関する決議集(1936年2月2日~8月26日, 枚数不明)

D263, D264 : D262のコピー

D265 : IKKI諸機関で採択されたIKKI幹部会, 書記局会議で承認されたスペイン共産党に関する決議の草案(1936年1月21日~12月28日, 263枚)

D266 : D265のコピー

D267 : スペインに関する決議の要約案とスペイン共産党の諸課題(1934年6月9日, 61枚)

D268 : D267のコピー

D269 : スペイン委員会会議の決議(1936年1月17日, 380枚)

D270 : スペインにおける状況, スペイン共和国防衛キャンペーン, スペイン問題についての社会主義青年インターと共産主義青年インターとの間の協力成立に関する情報, 報告, 書簡, 宣言(1936年7月27日~12月22日, 117枚)

D271 : D270のコピー

D272 : 新聞, 雑誌の抜粋, 書簡, スペイン問題に関する情報: スペインのメーデー代表団のソ連滞在に関する報告(1937年2月27日~9月7日, 147枚)

D273 : D272のコピー

D274 : スペイン国際旅団の1937年4月17日の状況に関する, アンドレ・マルティの報告(1937年5月5日, 59枚)

D275 : 記事, ルポルタージュ, スペイン国際旅団の歴史に関する新聞のスクラップ(1938年3月4日~12月1日, 64枚)

D276 : D275のコピー

D277 : スペインの状況に関する報告と共産党の諸課題, 要員の利用, 避難民, カタロニア統一社会党, 非合法活動の組織化, スペインにおける統一戦線に関する報告的なメモのコピー(1939年6月11日~6月20日まで, 53枚)

D278 : D277のコピー

D279 : スペイン共産党中央委員会の「スペイン人民の独立のための戦争の教訓」の決議, 「戦争の末期における党指導部の弱点, 過ちに関する」結論の決議, ビスカイヤの情報(1939年3月21日~8月5日, 83枚)

D280 : D279のコピー

D281 : PSUCカタロニア統一社会党に関するIKKIの決議案, カタロニア統一社会党の執行委員会決議, カタロニアの状況と党の諸課題, スペイン問題に関する報告, 提起, 書簡(1939年8月10日~8月27日, 73枚)

D282 : スペイン国際旅団問題検討に関するIKKI幹部会委員会の提起, 元国際旅団兵士の状況に関する報告,

書簡, スペイン共産党メンバーとスペイン国民に対する, 第二次世界大戦開始に際したアピール (1939年8月13日~11月22日, 247枚)

D283: D282のコピー

D284: ミュンヘン条約以後のスペイン国内の政治状況に関する報告 (1939年6月16日, 217枚)

D285: D284のコピー

D286: ホセ・ディアスのスペインに関する報告集 (1940年8月24日, 42枚)

F545: 国際旅団 (1936年~1939年, 目録6個, 3365ファイル)

O1: 国際旅団コミッサール, ルイジ・ロンゴ国際旅団コミッサール査察總監の文書

D7: 国際旅団, 政治活動の状況に関するバレンシアの国際旅団軍コミッサール代表と, 国際旅団コミッサール査察官の往復書簡文書 (1936年~1939年, 79ファイル)

O2: スペイン共和国国防省附属国際旅団基地, 中央軍政当局の文書 (1936年~1939年, 500ファイル)

O3: 第35, 45師団, 第10~15, 129国際旅団の文書とスペイン共和国軍兵団の文書 (1936年~1939年, 797ファイル)

D152: スペイン共和国陸軍省, 共和国陸軍コミッサール總監に宛てた第12旅団コミッサールの旅団大隊コミッサールの役職に関する上申書 (1937年4月27日~1938年4月20日, 40枚)

D163: 第12旅団義勇兵の戦死者, 負傷者, 行方不明者のリスト (1937年2月18日~1939年1月, 173枚)

D166: 第12旅団義勇兵のピオグラフィー (1937年~1938年, 73枚)

D177: スペイン内戦参加に関する第12旅団ポーランド人義勇兵の回想, 論文, メモ, 談話 (1937年~1938年, 113枚)

D179: 第12旅団義勇兵と家族・親類との往復書簡文書 (1937年3月~6月29日, 26枚)

D180: 第12旅団義勇兵の戦死者に関する死亡告示 (1937年6月~1938年10月)

D185: 旅団司令部に宛てた第12旅団第1ドンプロフスキー大隊司令部の, 戦闘行動, 人員, 補給に関する報告書。大隊に関する大隊司令部の命令書, 各部隊司令部の報告書, 大隊人員のリスト, その他の文書 (1937年3月1日~8月17日, 192枚)

L66: バルカン中隊のリスト

D473: 旅団新聞, 旅団ビュレティン用の第15旅団兵士のメモ, 詩, 手紙の文面, 告示, スローガン, 絵

D479: スペイン共和国軍の戦闘作戦の参加に関する第15国際旅団兵士の論文, メモ, 回想 (145枚)

D483: 戦闘態勢, 政治活動, 人員, 武装化に関する第15旅団工兵中隊と旅団司令部との往復書簡文書。工兵中隊の統計報告 (1937年2月3日~9月3日, 62枚)

D496: 人員, 大隊内部の規律, 補給, その他の諸問題に関する第15旅団第16 (57) イギリス大隊と旅団司令部との往復書簡文書 (1937年1月31日~7月20日, 1938年)

D503: 第15旅団リンカーン・ワシントン記念第17 (58) 大隊司令部と旅団司令部, 国際旅団基地司令部, 中隊司令部, 戦闘準備, 政治活動, 武器, 装備, 兵員, その他の諸問題に関する大隊直属部隊との往復書簡文書。挨拶電文, アメリカ共産党中央委員会からの書簡 (1937年11月1日~1938年9月3日, 192枚)⁽¹⁶⁾。

O4: フランスと北アフリカの強制収容所に収容された国際旅団兵士, 司令官の文書 (1936年~1939年, 73ファイル)

D28: フランスの収容所に収容された, 西ウクライナと西ベロルシア (ポーランド国境) 出身の国際旅団義勇兵たちの, 集会の決議, 報告書, ビュレティンその他の文書 (1939年3月~6月2日, 16枚)

D56: フランスのギュルス収容所の, エストニア人グループのビュレティン

O5: スペイン共和国軍国際旅団の写真資料 (1936年~1939年, 298ファイル)

⁽¹⁶⁾ Hervey Klehr, John Earl Haynes and Friedrikh Igorevich Firsov, *The Secret World of American Communism*, Yale University Press, New Haven and London, 1995. この邦訳文献としてH・クレア, J・E・ヘインズ, F・I・フィルソフ著 (渡辺雅男, 岡本和彦訳) 『アメリカ共産党とコミンテルン』(五月書房, 2000年)がある。だがこの翻訳本は史料のリスト番号を明示していない。実際に史料に当たるときは原本を参考にしたほうがよいだろう。

- D281: フランスのギュルス収容所のウクライナ・ベロルシアグループの写真
 O6: 国際旅団兵士, 司令官のリスト, 個人文書, その他の文書(1936年~1939年, 1618ファイル, 出身国別に史料が分類, 保管されている)
 D604~606: ラトビア
 D608~613: リトアニア
 D630~813: ポーランド
 D1514~1517: エストニア
 D1519~1536: ユーゴスラヴィア
 D234~235: アルメニア
 D1538~1556: 亡命ロシア人
 D1538: 亡命ロシア人, 国際旅団義勇兵, スペイン民族革命戦争参加者の人物評定を伴うリスト(1938年~1939年, 55枚)
 D1539: フランス, メキシコ入国許可証の授与に関する亡命ロシア人, 国際旅団義勇兵の申請書(19枚)
 D1540~1556: 亡命ロシア人, 国際旅団義勇兵, スペイン民族革命戦争参加者の個人文書

F495 O120,121: スペイン共産党(1919年~1947年, 目録3個, 268ファイル, 写真9498葉)

O120: 文書史料

- D124: スペイン共産党中央委員会の報告書, 共産党の活動, 選挙運動, スペインにおけるストライキ運動, 農村の状況, その他の諸問題に関する演説, 報告, 党員証, 切符
 D125: ソ連内に滞っていたスペイン人政治亡命者たち(スペイン1934年十月革命の参加者, スペイン共産党員, 社会党員, その他)のスペイン共産党中央委員会, スペインの各新聞編集部, ラルゴ・カバリェロ, その他の者たちに宛てた書簡, 個人的問題, その他の諸問題でのスペインに帰還する可能性について, またスペイン人民に対する挨拶がこめられている, プエルトリコ共産党中央委員会政治局のスペイン共産党中央委員会に宛てた書簡
 D126: スペイン共和国軍各部隊におけるスペイン共産党中央委員会, 地方諸組織, スペイン共産党各委員会のピラ, 機関紙, ビュレティン(1936年1月6日~12月16日)"Offensiva", "Victoria Boletin del Batallon 'Leal'"
 D127: オランダ語出版用のパンフレット『ノーバサラン』の原稿, D・イバルリのバイオグラフィー, 論文, 演説, D・イバルリ, J・ディアスに関する論文(1936年~1937年)
 D128: スペインとカタロニアの政治状況に関するカタロニア共産党中央委員会のテーゼ案, PSUC(カタロニア統一社会党)のアピール, メモ, 報告, ビュレティン, 党員証, 切符, カタロニア政府宣伝代表部のビュレティン(1936年2月21日~10月28日)
 D129: 国会総選挙の際結成された人民戦線委員会, 人民戦線参加諸政党, 諸組織のピラ, ビュレティン, 機関紙の切り抜き, 立看板, ポスター(1936年1月~1936年2月)
 D130: スペイン統一社会主義青年同盟のピラ, ビュレティン(1936年8月25日~10月23日)"Al Frente!", "Joven Guardia"
 D131: MOPR(国際革命戦士救援会)スペインセクション, スポルチンテルン, 労働者同盟, その他スペインの進歩的大衆組織の報告書, ピラ, 小報告(1936年1月25日~9月16日)
 D132: 共和国スペインの人民民兵各部隊のピラ, ビュレティン(1936年1月~12月1日)"Milicia popular", "Avance"(organo del 1-er Regimiento de milicias populares), "Ja Vencer"(organo de las milicias andaluzas), "Vencermos"(organo de batallon de milicias populares de Juan), "Ejercito popular"(organo de las fuerzas armadas leales a la Republica)
 D133: FAI(イベリアアナキスト連合)と, CNT(スペイン全国労働組合連合)の情報ビュレティン, 機関紙"Solidalidad Obrera"の切り抜き(1936年2月4日~10月24日)
 "CNT, FAI, AIT Informationsdienst"(ドイツ語)

O121: 写真史料

(2) 閲覧可能だが, 時間的余裕がなく閲覧できなかったもの

F495 O188: POUM(1936年~1939年, 目録1個, 33ファイル)

- F539 O1~5: 国際革命戦士救援会MOPR (1922年~1941年, 目録5個, 3742ファイル)
- F534: プロフィンテルン=赤色労働組合インタナショナル (1920年~1940年, 目録8個, 3698ファイル)
- F533: 共産主義青年インタナショナルKIM (1914年~1943年, 目録12個, 7110ファイル)
- O10: 様々な諸国の共産主義 (社会主義) 青年同盟 KIMセクションの情報のためのKIM執行委員会に送られた文書 (1914年~1919年, 3899ファイル, スペイン関連は1344~1455a, スペイン内戦は1403~1428)
- F537: スポルチンテルン=赤色スポーツインタナショナル (1921年~1938年, 目録2個, 519ファイル)
- O1: 大会, 協議会, 執行委員会, 幹部会, 書記局 (1921年~1938年)
- D1~137: 大会, 協議会, 執行委員会総会
- D38-44: 協議会
- D45-70: 総会
- D71-227: 執行委員会総会, 幹部会, 書記局, 委員会 (各部)
- D228: 執行委員会の財政文書
- D229-302: アギトプロブ文書
- O2: 執行委員会, 幹部会, 書記局とスポルチンテルン各国諸組織指導部との往復書簡 (各国別に分類)
- D67: スポルチンテルンのスペインスポーツ諸組織の機構, 非プロレタリア体育諸組織との相互関係, ファシズム化, 青年の軍国主義化, スポルチンテルンの活動におけるスペイン共産主義青年同盟への援助, その他の諸問題に関する, 執行委員会, ベルリンビューローとスペイン共産主義青年同盟中央委員会, 労働者スポーツ同盟との往復書簡 (1923年3月~1936年7月, 64枚)

(3) 現在, 閲覧できないもの

- F495 O73~77: デイミトロフ書記長個人書記局 (1934年~1945年, 目録5個, 1018ファイル)
- O73: デイミトロフとIKKI, 全連邦共産党 (ボ), ソヴェト諸国家, 党諸機関の諸組織, 部署の指導者との往復書簡文書 (1934年~1944年, 227ファイル)
- O74: デイミトロフと各国共産党指導部との往復書簡文書 (1934年~1944年, 647ファイル, 一部は史料集に所収され公開されている)
- O75: IKKI学校に関する往復書簡文書, その他の文書 (1936年~1944年, 32ファイル)
- O76: スペイン国際旅団に関する往復書簡文書, その他の文書 (1936年~1943年, 56ファイル)
- O77: 第二次世界大戦期のソ連国内の収容所にいた戦争捕虜の間の活動に関する往復書簡文書, その他の文書 (1941年~1945年, 55ファイル)

- F495 O10: マヌイリスキー個人書記局 (1924年~1944年, 526ファイル, スペイン問題担当)
- F495 O184: 暗号電文の書き写し (1933年~1943年, 764ファイル)
- F505: 国際統制委員会IKK (1921年~1941年, 目録2個, 250ファイル)
- O1: 国際統制委員会の諸会議の議事録 (1921年~1941年, 201ファイル)
- O2: ハンガリー, ユーゴスラヴィア, エストニアその他の共産党党员的の調査に関する国際統制委員会の文書 (1921年~1941年, 15ファイル)
- F495 O133: IKKI要員部のスペイン共産党幹部に関する文書 (1932年~1943年, 137ファイル)

(4) その他に関係すると思われるもの (閲覧可能なもの)

- F495 O12: エルコリ (トリアッティ) 個人書記局 (1935年~1943年, 173ファイル, 肅清関連)
- D94-L13,14: フリアン・ゴルキン (POUM指導者の一人) の発言⁽¹⁷⁾
- F495 O17,102: イバルリ個人書記局 (ラテンアメリカ担当, 1935年~1941年, 目録2個, 366ファイル)
- O17: イバルリ個人書記局文書 (1935年~1941年, 355ファイル)
- O102: イバルリ個人書記局の文書 (追加文書, 1937年~1940年, 11ファイル)
- D7: 共産主義青年インタナショナル執行委員会のスペイン共和国援助の諸課題に関するラテンアメリカ諸国の青年諸組織への命令書, ラテンアメリカ諸国のスペイン共和国に対する援助に関する論文

(17) 前掲『世界革命と世界戦争』に所収。スターリン体制とそのスペインにおける政策を激しく批判している。

F543: 国際的反ファシスト諸組織のフォンド(1923年~1941年, 目録2個, 75ファイル)

F507: コミンテルン国際婦人書記局MJS(1920年~1937年, 目録3個, 555ファイル)

F495 O83: IKKI印刷出版部(1921年~1942年, 596ファイル)

F495 O83 D331 L40,41: ラルゴ・カバリェロの1936年1月14日の演説⁽¹⁸⁾

(5) 個人フォンド

スターリンおよびスターリンの側近たち

F558: イオシフ・スターリン(1866年~1986年, 目録10個, 16174ファイル)

ディミトロフとの往復書簡あり, 1935年までは確認済み

O1-D3162: スターリンのディミトロフ宛書簡(1934年10月25日付, 内容: コミンテルン改組について)

O1-D?: IKKIのアピールに対する賛意の表明, 草案「世界の, プロレタリアートの行動のために」(1935年10月末, 整理番号5529号)

O1-D?: スペイン共産党に宛てた書簡(1936年10月末, 整理番号5622号)

O2は非公開らしい

F74: クリメント・ヴォロシーロフ(1844年~1978年, 目録1個, 451ファイル)

F77: アンドレイ・ジュダーノフ(1896年~1948年, 目録3個, 1299ファイル)

F82: ヴァチェスラフ・モロトフ(1909年~1957年, 目録1個, 805ファイル)

コミンテルン幹部

F523: ドミートリー・マヌイリスキー(1919年~1944年, 目録1個, 118ファイル)

F527: パルミーロ・トリアッティ(1920年~1944年, 目録1個, 27ファイル)

F522: オットー・クーシネン(1899年~1964年, 目録3個, 329ファイル)

F615: ウィリアム・フォスター(1910年~1962年, 目録1個, 114ファイル)

スペイン共産党

F495 O149: ホセ・ディアス(1937年~1941年, 2ファイル)

F517: フランス共産党

O1: フランス共産党の文書(1917年~1946年, 2055ファイル)

O2: アンドレ・マルティの文書コレクション(1917年~1946年, 61ファイル)

O3: モーリス・トレーズの文書コレクション(1917年~1946年, 34ファイル)

O4: フランス共和国臨時政府の活動, そのソ連における代表部, シャルル・ド・ドゴール將軍の組織「闘うフランス」の活動に関する文書コレクション(1917年~1946年, 16ファイル)

(6) その他, 関係すると思われるもの(閲覧不可能なもの)

F508: 全連邦共産党(ボ)代表団(1919年~1936年, 目録3個, 162ファイル)

O1: IKKI内全連邦共産党(ボ)代表団会議事録(1923年~1933年, 134ファイル)

O2, O3: 全連邦共産党(ボ)代表団とロシア共産党(ボ)-全連邦共産党(ボ)との往復書簡(1919年~1936年, 28ファイル)

F546: 全連邦共産党(ボ)委員会(1920年~1943年, 目録1個, 392ファイル, コミンテルン内組織)

F547: 全連邦レーニン共産主義青年同盟委員会(1920年~1943年, 目録1個, 49ファイル, コミンテルン内組織)

F548: 労働組合委員会(1921年~1940年, 目録1個, 15ファイル)

(18) 註10を参照されたい。